

昭和八年後期に於ける市電従業員の労働運動

一、はしがき

東京交通労働組合内紛困乱の一年も、妥協と方向転換に依りて漸く解消せられた。

昭和八年非常時現下に於ける、我國無産政党並に労働組合は、嘗て見ざる萎縮と無力さを経験せしめられた。非合法極左分子は地下に潜入して抬頭の機を利奪され終った。

全く労働組合自身その統一の未完成と充實の不足分さを曝露し、その方針に就いて再認識再考察の要を認めざるを得ない情勢に迫せしめられた様だ。

非常時の波に東つて、ナシヨナリズム謳歌の市電労働組合の内部から涌えて来る、労働者は組合運動に對する熱意と信賴から遠ざかりつゝ、ある。職業的労働運動者の影は殊更薄くなつた。悪事は反響と再起に懼しい焦慮を感じたのである。

十月から十一月に亘つて開かれた幾多労働組合の年次大会は、斯る情勢の清算であり労働組合更生の新方途確立の契機となつた。

斗争第一主義から協調主義へ、政治斗争から経済斗争へ、所謂合